

# 日本語教室の茶道教室が開かれました 茶道は日本人の「おもてなし」の体現

紙透 繁(日本語教室部会)

12月5日(月)、7日(水)、8日(木)、サンロード5階茶室にて日本語教室部会による茶道教室が開かれました。3日間の参加者は学習者26名、ボランティア12名、行事スタッフ10名でした。

師走5日の教室は、日本語学習を途中で終え、慌ただしく茶室へ行きました。日本語ボランティアの進藤さん、田中さん、勝又さんが和服姿で迎えてくださり、私も含め、参加者11名(学習者7、日本語ボランティア4)はおずおずと席入りしました。席主は進藤さん、亭主は田中さん、半東(亭主の補佐役)は勝又さんが務めました。

茶室は、季節感を演出するため、花入れにさりげなく生けられた、侘助、万両、鉄線が床の間を明るくしていました。掛け軸の文字は「無事」。この1年を平穩に、またつつがなく過ごせたことへの感謝を表しています。私自身も、2016年は1月に日本語ボランティアを始めたことや6月に手術をしたことなど、いろいろなことがありましたが、この日お茶をいただけたことは「大吉」といいでしょう。

進藤さんから茶の湯の歴史の説明があり、「千利休」の名前を覚えておくよう話があり



和服姿の進藤さん(左)、勝又さん(中央)、田中さん(奥)

ました。

進藤さんの話を拝聴しつつ、懐紙、黒文字(お菓子里に添えるヨウジ)、お菓子を1人ずつとります。参加者はみんな初体験なので作法や礼法に不案内です。隣の人を見ながらお菓子を食べました。味はもとより和菓子の美を感得できたでしょうか。

いよいよお茶です。田中さんが2碗点てるところを拝見しました。そしてみんなが順番に陰点(かげだて。客の前で点てずに水屋で点てて運ぶこと)してもらったお茶をいただきました。その後、参加者ほぼ全員が茶筌を使ってぎこちない手つきながら点ててみました。

私自身もお茶会は初体験で、初めは全てが不明でした。点ててくださる人への礼、隣席の人への礼など礼法が難しかったです。そして亭主や半東はもちろん、客人(参加者)と同数ぐらいのスタッフが陰でバックアップして、この茶会が成立しています。茶道が日本人の「おもてなし」の体現であると思いました。

実は、今日の体験で時計をはずすことを教わりました。時間を忘れてお茶を楽しむ、ということだそうです。

最後に、学習者、ボランティアのみなさんにとって、新年の「無事」を祈念します。



教えてもらって初めてお茶を点てました